

〔第8回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

質量分析計を用いた 認知症のバイオマーカー探索

共同利用推進室
渡邊 淳 室長

2016年4月12日(火) 16時30分
第1研究棟2階大会議室

今後高齢者が爆発的に増加することが推測され、同時に認知症患者の急速な増加が予想される。患者の増加を抑える上で、認知症を早期に発見し、治療を開始することが必要となる。

認知症研究を行う上でヒト試料の蛋白質の解析は必要不可欠であり、得られる情報は病態の解明に重要な知見をもたらす。もし患者の血液等の生体試料の解析によって、バイオマーカーが同定できれば、安価で迅速な診断方法が可能となる。しかしながら、ヒト試料は貴重かつ量も限られるため、微量で蛋白質を解析、同定できるシステムが必要であり、現在これらを行う上で最も有効な手段の一つが質量分析を中心としたプロテオーム解析である。

本研究発表会では、質量分析計を用いたアルツハイマー病のバイオマーカーの探索及び虚血モデルラット脳の解析について報告します。また、これらの結果を通して、認知症の診断及び治療薬開発のためのターゲット分子の同定の可能性についてお話します。

座長：渡邊 研